概要編

～１時間でわかる！「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」～

第1 ワークショップのねらい

独立行政法人建築研究所 主任研究員 **樋野　公宏**

一時期、ピッキングという侵入手段が流行ったのをご記憶かと思います。この背景には、高度成長期以降、コストや便利さを重視するあまり、どの建物でも同一形式のドア錠が取り付けられたことがあります。この錠前は泥棒に研究し尽くされ、侵入盗の急増という結果を招きました。今では「防犯性能の高い建物部品」（CP 部品）に認定される錠前が各メーカーで何種類も製造され、泥棒にとってはやりにくい状況になりました。地域で行われる防犯活動も、それぞれの地域性を加味した多様な活動が行われた方が、犯罪者にとって攻略しづらいと言えます。

防犯活動を多様化するキーワードとして、私は「プラス防犯」を提案しています。まちづくりのテーマは景観、環境、地域活性化など多岐にわたり、「防犯まちづくり」もその一つとして位置づけられます。強調して言うなら、防犯はまちづくりの一つのテーマに過ぎず、総合的な視野を欠いて防犯だけを突き詰めても、必ずしも良いまちづくりは実現しないということです。より良いまちづくりのため、防犯活動に他のテーマを加味すること、逆に、他のテーマの活動に防犯的な意味合いを持たせることが「プラス防犯」です。

今回のワークショップのように、各地域で防犯活動を行う人たちが集まる場は、互いの活動を自らの参考にするだけでなく、それぞれの活動の独自性を競い、刺激し合う場としても有効です。地域独自の活動であることは、担い手のやる気にもつながります。防犯を入り口に、他のまちづくりのテーマにもつながる多様な活動が行われること、それによって地域の魅力と活力が高まり、そこでの生活の質が向上することを祈念しています。

まちづくりコーディネーター **杉崎　和久**

今回のワークショップでは、都内の広範な地域から、また世代も大学生から長年活動をしているベテランまで幅広い人たちが集まりました。そういった中で、参加者には多くの人たちと対話をすることにより、日常の活動に役立つヒントを得て欲しいという狙いをもって企画されました。ワークショップという手法自体は、性別や世代、価値観やライフスタイルなど地域を構成する多様な人が対話するための手法として、まちづくりの現場ではよく使われている手法です。

具体的には、話し合いの単位（少人数のグループに分けるなど）、対話の順序・テーマ設定、人前で自分の考えを表明しやすくするための道具（付箋紙など）の使用、議論の過程が見えるようにする（模造紙等の活用）などの工夫が行われます。今回はさらに、参加者の関心に沿ったテーマで対話するため、事前アンケートを反映したテーマ設定や、より多くの人たちの経験や知恵を得るために途中で席替えを取り入れるなどの工夫を行いました。最近ではワークショップに関する参考書も多く出版されています。

みなさんの活動の中でもよりよい話し合いをするために、目的や参加者構成等に合わせた対話の工夫をしてみてはいかがでしょうか。

第2 ワークショップの概要

ワークショップの開催に当たり、具体的な進め方等を検討するため『「いいなぁ安心まちづくりワークショップ」運営委員会』を設置しました。

1. **開催日**　平成 24 年 11 月 18 日（日曜日）

2. **開催場所**　東京都庁第一本庁舎５階　大会議場（新宿区西新宿２－８－１）

3. **開催目的**　地域で活動するボランティア団体等のネットワーク強化、防犯活動の活性化を図る。

4. **進行及びファシリテーター**

○ 進行

小出　　治（東京大学大学院教授）
樋野　公宏（独立行政法人建築研究所主任研究員）
杉崎　和久（まちづくりコーディネーター）

○ ファシリテーター

小口　優子（有限会社まち処計画室　代表取締役）
原田　正隆（株式会社まちづくり商会　代表取締役）
林　　秀雄（株式会社まちづくり商会）
市川　　徹（株式会社世田谷社　代表取締役）

5. **参加者**　101 名

東京都安全・安心まちづくりアカデミー修了者 注1
東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者 注2
防犯ボランティア団体、学生ボランティア

6. **運営手法**　ワークショップの開催に当たり、具体的な進め方等を検討するため「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会を設置しました。４つの分科会（16 グループ　※ P13 参照）を設け、地域における防犯活動上の課題や解決方法等について自由に意見交換し、これからの活動のヒントを見出すとともに、仲間づくりを促進しました。

注１　東京都安全・安心まちづくりアカデミー」とは、各地域における防犯ボランティア団体の結成促進と活性化を図るため、東京都が平成 16 年度から平成 17 年度にかけて開講した全国初の実践型防犯リーダー・オブ・リーダーの養成講座である。

注２　東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座」とは、地域の子供の見守り活動を推進するため、東京都が平成 22 年度から平成 24 年度にかけて開講した地域防犯活動を主導するボランティアリーダーの養成講座である。

7. 進行内容

① オリエンテーション
（ワークショップの進め方、話し合いのルール等を説明）

② グループ活動１・２（各 40 分）
（自己紹介、テーマ・課題別の意見交換）
グループ活動１とグループ活動２の終了時に席替え

③ グループ内発表（20 分）
④ 全体発表（任意の４名）
（参考になった事例やワークショップの感想等を発表）

⑤ 講　評
（小出運営委員長ほか２名の運営委員より）

⑥「いいなぁ 安心の樹」の作成
（参加者全員がこれからの意気込み等を葉っぱ形の付箋に記入し、
「いいなぁ 安心の樹（表紙参照）」を作成）

第3 みんなで語ろうボランティア！

４つの分科会で行われたグループ意見交換の要旨を紹介します。

※自由な意見交換を促すため、各テーブルにはファシリテーターを配置しておりません。

1 第1分科会（活動内容の充実）

第１分科会では、【活動内容の充実･工夫】【若い世代の参加】【高齢者の見守り】などについて意見交換が行われました。

【活動内容の充実・工夫】

○ ＰＴＡが「買い物時間帯に子供達を見守ってほしい」と商店会等に呼びかける。
○ パトロールに参加できない人にはプランターを配付し、そのプランターへの水やりなどの時間を子どもの見守りタイムにしてもらう。
○ パトロール活動は、友達づくり、地域のコミュニケーション、ゴミ拾いなども兼ねて行っている。
○ 活動を継続させるためには、楽しくできることが大事である。
○「七夕」や「お祭り」などのイベントの手伝いを頼むことで、地域のまとまりを強めている。
○ 定期的な活動は、活動情報をオープンにして、きちんと続けることが大事である。
○「地域全体で子どもを見守る」機運を高めるため、啓発ポスターを公園や学校等に貼ってもらう。
○ 落書きや掲載期間が経過した掲示物、剥がれかかっている掲示物はそのままにしておかない。
○ パンフレットなどを配布する際、相手の顔を見ながら渡すと受け取ってもらいやすい。

【若い世代の参加】

○ 防犯ボランティアとしての現場経験を若い人に伝えるための交流の場が必要である。
○ 企業の参加も得て、朝晩のパトロールを活発に行っている。
○ 一人暮らしの学生は､地元の方と知り合う機会がほしいと感じていても､地元との接点が全くない。
○ 学生ボランティアとして活動しているが、10 回参加すると地元警察署から感謝状がもらえる。
○ 学生ボランティアを広げるためには、就職活動に有利であることをアピールしたり、「活動による単位取得」等を進めることが必要である。

○ 大学生は地域に愛着がない。地域の方から「一緒にやりませんか。」と言われても、地元の人達が連携している中に入っていく勇気がない。
○ 幼稚園、小学生のような幼少期からのボランティア活動の教育が必要である。

【高齢者の見守り】
○ 民生委員と連絡を取り一人暮らしの老人を見守ろうとする動きも見られるが、プライバシーの保護が課題となっている。
○ 一人住まいの孤独死を防ぐために、「おはよう」などの一声運動を実行してみてはどうか。
○ 集合住宅では孤独死がわからない状況にある。例えば、新聞屋さんやボランティア団体等が互いに提携することも必要である。

【第１分科会のまとめ】
防犯活動の目的は犯罪を抑止することにあるが、それ以外にも、地域の住民同士のコミュニケーションづくりや、安全・安心なまちづくりに貢献している。人と人との関係性が希薄になっている中で、防犯活動を通じ、町会のイベント等に積極的に係わることで、地域の団結力が高められている。
一方、若い世代の参加を促すための感謝状贈呈や学生への単位取得等のインセンティブ付与も工夫の一つと考えられる。
また地域の取組として、「子供見守り活動」のほか、高齢者の孤独死を防止する動きも見られる。
都内各地域では、こうしたパトロール以外の活動が自主防犯ボランティアによって、既に取り組まれている。

2 第2分科会（参加者の拡大）

第２分科会では、【参加者の拡大･工夫】【参加者の高齢化問題】【若い世代の参加、子供の参加等】について意見交換が行われました。

【参加者の拡大・工夫】
○ ＰＴＡのお母さんなど、若い世代の参加促進を考えている。
○ 定年退職した人にターゲットを絞り勧誘している。
○ 自治会のお祭りの準備を 100 人体制で進め、そこでのコミュニケーションづくりが、地域の防犯対策の一つとなっている。

【参加者の高齢化問題】
○ 転んで怪我をする人がいるので、参加年齢の上限を設けている。

【若い世代の参加、子供の参加等】
○ 学生のボランティア活動参加について、学生は「地域の方々との交流ができて楽しい」、地元の方は「学生の参加は非常に嬉しい」という声が多い。

○ 若者を育成する方法の一つとして、子供達をパトロールに参加させている。
○ 中学校に声をかけ、道路のゴミ拾い活動を行っている。

【第２分科会のまとめ】

自主防犯ボランティアの高齢化は各地域の課題である。

大学生など若い世代の参加を促進し、一緒に活動してみたいが、そのための方法がわからないという意見が多い。地域と学生が交流し、双方が楽しみながら一緒に活動するためには、行政や警察などが主体となり、交流の場を設けること、地域や学生が自ら働きかけることが必要と思われる。

3 第3分科会（行政や警察との連携）

第３分科会では、【行政や警察との連携】【ボランティア同士の交流】【他団体との連携】などについて意見交換が行われました。

【行政・警察との連携】

○ 行政や警察との連携で最も大切なのは、頻繁に顔を合わせること。役所等を訪問して直接意見交換することが重要である。
○ 町会長が積極的に警察や区役所を訪問し、地域の課題等を理解してもらうことが重要である。
○ 行政はいろいろなサービスを行っているが、そのことを知らない人が多い。ぜひ活用すべきである。

【ボランティア同士の交流】

○ 都の講習会で知り合った仲間と、月１回程度集まり情報交換している。
○ 相互に情報交換することにより、他の地域の行事にも応援に行き、新たな仲間作りと取組のアイデア等をもらうことができた。

【他団体との連携】

○ 民間のみで解決できないことは、行政、警察、民間の三位一体でやることが重要である。
○ 交通安全や防犯、防災の団体がバラバラに活動しているので、これらの団体が一堂に会する場所を設けて情報交流していきたい。

【第３分科会のまとめ】

行政や警察と連携するためには、担当者と意見交換しながら、互いに協力しあうことが重要である。

また、ボランティア同士や関係団体が連携することで、互いの地域情報が共有でき、活動の幅が広がる。防犯活動以外でも助け合うことができるので、各団体が情報交流できる場を設けることが必要である。

4 第4分科会（学校・PTAとの連携）

第４分科会は、【学校・ＰＴＡや町会との連携】【子供の防犯対策】などについて意見交換が行われました。

【学校・ＰＴＡや町会との連携】

○ 学校と話し合いの場を設けている。
○ 学校とタイアップしてパトロールを行っている。
○ 学校から「地域で生徒を見守ってください。」と地域にお願いされている。
○ 学校やＰＴＡと話をする機会が全くない。
○ 地域の安全・安心づくりは、学校主体ではなく、地域が率先して学校に協力してもらうことが重要である。
○ 学校との連携・協力のきっかけづくりはとても難しいが、例えば、毎日、子供の通学路に立ちＰＴＡと交流することが望ましい。
○ 町会がしっかり防犯活動を行うと、その地域では空き巣やひったくりなどの犯罪が少なくなる。

【子供の防犯対策】

○ 防犯ブザーを持たせていても、それだけでは駄目。人と人とがつながり、地域で子供を見守っていくことが重要である。
○ 大声を出す練習も必要である。

【第４分科会のまとめ】

子供の見守り活動には、地域、学校・ＰＴＡが互いに連携することが重要である。学校との話し合いの場を設けたり、学校からも地域に協力をお願いするなど、互いに積極的に協力関係を築いていくことが重要である。

地域や学校・ＰＴＡとボランティアが団結して、防犯活動を行うことで、犯罪が発生しづらい環境が形成できる。子供へ防犯ブザーを携帯させるだけでなく、地域として子供を見守る体制を構築していくことが必要である。

第4 もっと教えて！ 突撃取材

参加者アンケートで、より多くの方々から「今後の活動の参考となる事例」として選ばれた団体等の活動について取材しました。

1 中野区環境井戸端会議

取材メモ

中野区環境井戸端会議の活動は、学校における「緑のカーテンづくり」、子供の見守り、防犯パトロール、道のゴミ無くし隊、子供への防犯教育など、とても多様。特に「緑のカーテンづくり」は区内の全ての小中学校へと広がり、「道のゴミ無くし隊」も地域住民だけでなく、区内の中学生、教員、ＰＴＡ、企業、区職員など幅広い組織・団体から参加していただいた。

これらを円滑に進めるためには、日々の地道な活動が子供や学校、地域に認められることが必要であり、そこで得られた信頼が多様な取組の成功へとつながっている。

また、防犯・防災活動をきっかけに、小学校区の３町会が強い絆で結ばれていることも特徴的である。

今後も町会同士や学校・ＰＴＡとの連携を更に深め、子供達が「安心して暮らせるまち」の環境づくりに向け、取り組まれることが期待される。

2 SVS（成城警察署管内大学生防犯ボランティア）

取材メモ

ＳＶＳとは、成城警察署が地元の大学生を集めて防犯活動に協力していただくものである。学生は10回参加すると警察署から感謝状をいただけるというユニークなインセンティブが設けられている。

学生の中には、地域の犯罪抑止活動に継続的に参加することで、防犯意識を高めるとともに「やりがい」を見出し、更にはいろいろな年代の人と会話や地域の方々と交流、先輩との繋がりなど副次的な効果に価値を見出す者も現れている。

今後は、ＳＶＳに登録する学生同士の交流を促進するとともに、地域への愛着心や防犯意識を高めて、ＳＶＳの活動以外でも、例えば区と連携して独自の活動を展開するなど、より裾野が広い活動が期待される。

3 麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員

取材メモ

麻布地区の生活安全と環境を守る協議会では、六本木という東京でも有数の繁華街を抱え、他地域とは異なる環境の中で、環境美化や防犯パトロール等の活動を行っている。

事件が多い地域のため、活動は警察官と一緒に行うなど、地元警察署との連携はとても重要である。以前は交番勤務の警察官との交流を深めるため昼食会を開催している。当該協議会には、警察や消防、行政も参画しており、この場を通じて要望や意見交換等を行っている。

一方、活動資金や地元参加者の不足が課題となっており、マンパワーについて在勤者で補っている。

行政や警察等と一体となって防犯・防災に取り組んでいること、企業の積極的な協力により、今後とも地域の防犯活動は継続して行われることが期待される。

4 亀戸二丁目団地管理組合自治会

取材メモ

亀戸二丁目団地管理組合自治会は、620 世帯という大きな団地の中で防犯・防災に力を入れている自治会である。地元小学校の子供見守り活動を柱に、地域が一体となって団地祭りを毎年開催している。祭りの準備や運営には、100 人規模の応援体制で取り組み、そこで知りあった方々と協力関係を築いている。

また少子化のため、隣接地域や隣接区との連携・連帯の必要性が増したことから、周辺大学や小中学校、他区の団体とも積極的に交流を深めている。

これらの取組は、防犯・防災対策を視野に入れて進められている。

このような大規模団地の中で活動が継続しているのは、役員をはじめ防犯・防災対策の意識が高く、団地や地域の方々からの信頼の賜物である。祭りを通じて自治会の団結力を向上させ、地域と連携しながら、交流を図っていることが鍵となっている。

今後とも祭りをきっかけとして、若い世代の参加を増やすなど、地域活動の一層の広がりが期待される。

第5 ワークショップに参加して

＜代表者の意見や感想＞

Aさん

○ 活動を開始して、まだ１年程度。今日は５年以上活動されている方々からお話を伺えて、非常に貴重な経験となった。
○ ボランティア活動をする中で、子供とどう接したら良いのかが悩みの一つだった。
○ 中学校付近でパトロール活動をしている方からお話を聞くことができた。以前は、年 10 件以上中学生による犯罪が発生していたが、友達のように親しく中学生と接していくことで、今年は犯罪件数をゼロに防ぐことができたと聞いた。非常に貴重なお話であった。
○ 自分でボランティア団体を立ち上げ、のぼり旗を作って防犯活動を広めている方から話を聞いた。今日は非常に勇気をもらった。今後も防犯ボランティアとして活動に励んでいきたい。

Bさん

○ 初めてボランティアの集いに参加した。大変有意義な時間を過ごさせていただいた。
○ 長年ボランティア活動をしているが、今日の集まりには熱気を感じた。さらに自分を奮い立たせて、もう一度ボランティアに力を入れようという勇気が湧いた。
○ もう 70 歳になるので、皆さんの地区では後継者問題をどうしているか聞きたかったが、なかなか結論が出なかった。
○ 学生ボランティアは４年間のサイクルで、学校を卒業すると、その地区からいなくなってしまう。
○ 学生さんの意見は貴重だったが、10 年、20 年のサイクルでボランティア活動ができる人を育てないといけない。
○ ボランティアの継続性についての結論が出ず残念だったが、これを機に防犯活動に力を入れたい。

Cさん

○ 防犯に限らず防災も含めて、また、子供見守りだけではなく、地域を見守るという観点で考えると、警察や消防といった行政機関との連携も非常に大事である。
○ 警察や消防の組織は縦割りなため、勉強はさせてくれるが、活動しようと思うとなかなかそこの所がつながっていかないことが問題であって、解決策はまだ見つかっていない。
○ 後継者問題について、大変活発な議論が出た。
○ パトロール活動に葬儀社等の地元企業も参加していると聞き、素晴らしいと感じた。
○ パトロールしている方々は高齢者が多いので、地元企業にお願いすれば、人を出してくれるのではないかと聞いた。
○ 盆暮れにお子さんと一緒に、拍子木を打ちながらパトロールすることも一つのアイデアである。アイスクリームを配り、子供と一緒にパトロールをする。そして町会長が表彰状を作り、それを学校で受け取るという活動を進めれば、子供達も喜び保護者も注目する。

Dさん

○ 今日話し合って、ボランティアリーダーの重要性が高いのではないかと感じた。
○ どんなに地域が頑張ろうとしても、ある程度の所で責任問題や活動の制約といった課題が出てくる。行政やＰＴＡが協力体制をとらないと、防犯活動は難しいのではないか。
○ 僕自身、公務員を志望している。公務に就いたら、できるだけ偉くなって、できるだけ地域のことを考えていきたい。

みなさん
安全・安心のまちづくりのために
一生懸命がんばっています！
そんな仲間達がたくさんいるって
とても心強いですよね♪